

お申し込み方法、その他

- 1.「参加申込フォーム」に必要事項をご記入いただき送信してください。
*ご希望のプログラムに添えない場合は連絡させていただきます。
- 2.参加費(交流会費・ランチ代含む)をお近くの金融機関からお振込ください。
*振込手数料はご負担願います。

- 銀行振込み
南都銀行 西ノ京支店(普通)2078235
ゆうちょ銀行 一〇九(イチゼロキュウ)店(当座)0007812
名義:一般財団法人たんぼの家
- 郵便払込み
01080-6-7812 加入者名:一般財団法人たんぼの家
*通信欄に「セミナー参加費」とお書き添えください。

申し込み締切

2019年7月12日[金]

定員(各日100名)になり次第締切らせていただきますので
お早めにお申し込みください。

おことわり

キャンセルには下記の通りキャンセル料を申し受けますのでご注意ください。

- ◎7月13日[土]～19日[金]…参加費の50%
- ◎7月20日[土]・21日[日]…参加費の100%
- *やむを得ない事情により、プログラムの一部を変更させていただく場合があります。
- *お預かりした個人情報、本セミナーの受付事務においてのみ使用させていただきます。
- *最新情報はたんぼの家ウェブサイト、facebookをご覧ください。

お問い合わせ・お申し込み先

 〒630-8044 奈良市六条西3-25-4
一般財団法人たんぼの家
Tel.0742-43-7055 Fax.0742-49-5501
E-mail.ableart@popo.or.jp http://tanpoponoye.org/

福祉をかえる「アート化」セミナー 2019 参加申し込みフォーム ※個人情報は、本セミナーの受付事務においてのみ使用いたします。
ウェブサイト: http://tanpoponoye.org/ の応募フォームからも申し込みいただけます。 E-mail:ableart@popo.or.jp Fax.0742-49-5501

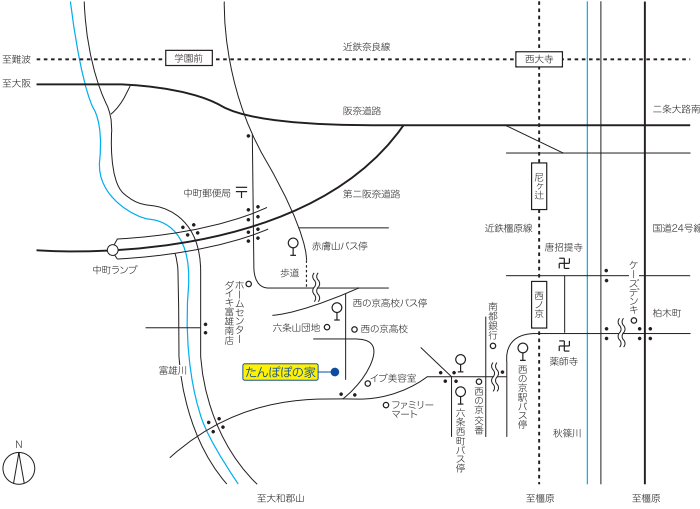
お名前〔ふりがな〕		所属先・活動内容等	
ご住所〔ご自宅以外の場合は、団体名までお書きください〕			
〒			
Tel.		Fax.	E-mail

このセミナーをお知りになったきっかけ、場所

参加希望日程・オプションプログラムについて、該当する□に✓印を付けてください		一 般		学 生	
2日間参加 (7月20日[土]・21日[日])		☐	15,000円	☐	10,000円
1日間参加	☐ 20日[土] ☐ 21日[日]	☐	8,000円	☐	5,000円
7月20日[土] オプション		☐ ①アートセンター HANA ツアー ☐ ②ダンス作品『だんだんたんぼに夜明かしカエル』をだんだんと振り返る ☐ ③障害とアートのなんでも相談室 ☐ ④「OPEN KITCHEN」福祉施設と芸術大学のコラボレーションの可能性			
7月21日[日] 選択プログラムA・B・C ※それぞれ参加希望プログラムに○をつけてください。					
午前(いずれか一つに○)		A-1	B-1	C-1	
		午後(いずれか一つに○)		A-2	B-2 C-2
7月20日[土] 交流会		☐	4,000円	☐	4,000円
7月21日[日] HANAランチ		☐	600円	☐	600円

振込合計金額 円
*振込手数料はご負担願います。
*申込者様のお名前でお振込みください。法人名や他のお名前ですとお振込みが確認できない場合がございます。

会場のご案内



たんぼの家アートセンター HANA 〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 Tel.0742-43-7055
ウェブサイトからもご覧になれます http://tanpoponoye.org/

近鉄奈良線「学園前」駅南口より

- 「西の京高校」行きのバスに乗り、終点「西の京高校」で下車、徒歩3分。
バスと徒歩で約20分。
- 「赤膚山」行きのバスに乗り、終点「赤膚山」で下車、徒歩15分。
バスと徒歩で約30分。

近鉄橿原線「西の京」駅より

「奈良県総合医療センター」行きのバスに乗り「六条西町」で下車、徒歩10分。
バスと徒歩で約20分。

無料送迎バスのご案内

近鉄奈良線「学園前」駅南口から、セミナー会場「たんぼの家アートセンター HANA」まで、ピストンによる送迎を予定しております。2日間とも、セミナー開催時／終了時にあわせた運行になります。詳細は、たんぼの家のウェブサイトでご案内させていただきます。ご不明な点は、事務局にお問い合わせください。

福祉をかえる「アート化」セミナー 2019 「芸術か非芸術か」-分断を乗り越えて-



15th anniversary HANA

2019年 7月20日[土] - 21日[日]

会 場:たんぼの家アートセンター HANA(奈良市六条西3-25-4)
定 員:各日100名〔申込先着順 締切 7月12日(金)〕
対 象:障害のある人のアート活動に関心のある人
アートによるプログラム開発、仕事の開発、アートスペースづくりに関心のある人
参加費:全日参加 一般15,000円 学生10,000円／
部分参加(どちらか1日のみ) 一般8,000円 学生5,000円

主催:一般財団法人たんぼの家、社会福祉法人わたぼうしの会 協力:NPO法人エイブル・アート・ジャパン、NPO法人まる

芸術をとおして、小さくても自分たちで新しい価値を作り発信する営みが各地で展開されています。障害のある人の表現を取りまく状況においても「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行され、国をあげて普及に力を入れはじめています。これらの背景には、それまで芸術とわれていなかった表現活動や行為、関係性が芸術として受け入れられたり、さまざまな分野から関わる人たちが増え、芸術の役割や領域が多様化してきたという状況があります。しかし一方で、障害のある人の表現が「障害者アート」といった限定された価値観のなかで評価されている現状もあります。

このセミナーでは、さまざまな分野を横断し既存のジャンルを超えて、目の前の課題に対し創造的に向き合うための考え方や具体的な技術を考えるためのヒントを発見していきます。障害を問い直し、固定した価値感を揺さぶる取り組みや、ケアをする人／される人、健常者／障害者といった関係を変えるユニークな事例から、分断ではなく越境することであまれる人間の多様性と豊かな関わり合いの可能性を見つけましょう。

みなさまのご参加をお待ちしています！



「だんだんたんぽに夜明かしカエル」 photo:草本利枝

Sandwiches Studio

「OPEN KITCHEN」展示風景

12:00-13:00 受付

13:10-13:20[10分] イントロダクション 「強くなるために弱くなる」芸術運動

播磨 靖夫(一般財団法人たんぽぼの家 理事長)

「弱いものが強いものに勝ち、柔らかいものが剛(かた)いものに勝つ」(老子)。この言葉と共鳴しながらたんぽぼの家の運動や、エイブル・アート・ムーブメントを展開してきた立場から、現代を生き抜くための社会デザインの理念を共有します。

13:20-14:10[50分] 基調講演「人間の芸と自然の理」

熊倉 敬聡(元慶應義塾大学理工学部 教授、元京都造形芸術大学芸術学部 教授／京都)

欧米を中心に考えられていたアートの概念は、今日限界を迎えつつあります。アートでないものをアート化していくロジックも当たり前になった現在、私たちの社会ではどうアートを捉えていったらよいのでしょうか。日々の暮らしの中で人間と自然のデザインについて考えたり、「つくること」を再定義してこれからの美を再発見しようとする熊倉さんの実践を通じ、そのヒントを探します。

14:10-14:20[10分] 休憩

14:20-15:10[50分] 事例紹介1「見えないものを見る～障害のある人の表現がつなぐ人と人～」

李 萬鏗(サンドウィッチスタジオ[三明治工] 共同設立者／台湾)

台湾を拠点に、行政、企業、NPOなど多様な人たちとの共働により、障害のある人や生きづらさを抱える人たちの社会参加のきっかけを作っている「三明治工」。デザインコラボからアートプロジェクトまで、多岐にわたる活動の根底には、社会の中の「弱さ」の価値をひっくり返そうとする姿勢があります。その理念と実践を聞きます。

15:10-16:00[50分] 事例紹介2「こんな公民館、あり? 地域の可能性を広げる公共施設の底力」

宮城 潤(若狭公民館 館長／沖縄)

沖縄・那覇市にある若狭公民館は、分野を横断したワークショップや、みずから外に出て外国人や地域住民と交流をする「パーラー公民館」、活動自体を自己評価するための「じゃばら手帳」など、公共施設のありかたを手探りで問い直す活動を続けています。既存のアートの枠組みやフィールドではない場所で、公共施設の根源的な力を活かす活動を聞きます。

16:15-17:45[90分] オプション選択プログラム ＊プログラム1～4は、並行して行います。いずれか1つを選択してください。

1 アートセンター HANA ツアー
スタジオ、ギャラリー、収蔵庫など、アートセンターをめぐりながらアートサポートや環境づくりの実践を紹介します。

2 ダンス作品『だんだんたんぽに夜明かしカエル』をだんだんと振り返る
2018年に制作した、共創の舞踊劇を映像をととして振り返ります。新しいダンスのあり方や、多様な価値観を尊重しながら作品をつくり上げるプロセスを共有します。

3 障害とアートのなんでも相談室
参加者のみなさんから、障害のある人のアート活動について、日頃の悩みをお聞きます。実践者からの具体的な事例紹介も交えながら、課題解決の糸口をみつけましょう。

4 「OPEN KITCHEN」福祉施設と芸術大学のコラボレーションの可能性
障害のある人と京都市立芸術大学の学生のコラボプロジェクト「オープンキッチン」。3年にわたって継続した成果を共有し、関わり合いから生まれる表現の魅力について語ります。

18:00～ 交流会

アート化セミナー名物の「交流会」。たんぽぼ楽食サービスによる手づくりの料理を食べながら、全国から来る講師や参加者との交流の時間です。名刺をたくさんご用意ください!

情報コーナー

会場に情報コーナーを設置しますので、閲覧用のパンフレットや資料をご持参ください。
＊掲示物は1団体A3サイズ以内でお願いします。

T-SHIRT COLLECTION 2019 Tシャツエキスポ

Tシャツコレクション2019 開催!

全国の福祉施設でつくられた色とりどりのTシャツや、刺繍やイラストが個性的な1点ものなどお気に入りの一着を見つけにきてください!



Lanka



栗田淳一「生命の息吹」(部分)



はじまりの美術館 外観

9:30-10:00 受付

＊選択プログラムA、B、Cは並行して行ないます。午前・午後に1つずつプログラムを選択してください。

選択プログラム

A

A-1 10:10-11:40[90分]

地域で場を開く
一つつくること、発信すること

障害のある人の創造の場や仕事の場、表現を発信する場を地域に開いていく活動が増えていきます。日常の活動のなかで表現の場をつくったり、施設の外との風通しを良くしたり、場の意味を組み替えることで新しい関係が生まれる事例を紹介します。

大政 愛(はじまりの美術館 学芸員／福島)
大山 真司(NPO法人Lanka 施設長／鹿児島)

選択プログラム

B

B-1 10:10-11:40[90分]

高齢化・重度化する障害とアート

歳を重ねることが楽しみになるような社会をつくりたい。どんな障害があってもその人の創作意欲を支えたい——そんな思いで、高齢化に寄り添いながら生活における創作活動をしている事例や、重度の障害のある人の表現をサポートするさまざまな道具や仕組みをご紹介します。

吉永 朋希
(たんぽぼの家アートセンター HANA アートディレクター)
※講師調整中
(確定次第、たんぽぼの家ウェブサイトでお知らせします)

選択プログラム

C

C-1 10:10-11:40[90分]

障害のある子どもたちの
発達と教育

自然豊かな環境や動植物とのコミュニケーションをとおして、生きること、表現すること、他者と関わりあうことの大切さを学ぶことができます。障害のある子どもたちの人間力を高めていく取り組みを伝えます。

風間 康寛(NPO法人エシカファーム 理事長／静岡)
高橋 智(NPO法人EPO 理事長／静岡)

11:40-13:30[110分] 昼食 HANAランチをご利用いただけます。[600円]

12:40-13:30[50分]

休憩の合間の
自由参加プログラム

アートセンター HANAの15年を振り返る
今年15周年を迎えたアートセンター HANA。変化するニーズに向き合いながら展開してきた活動をご紹介します。

Good Job! センター香芝の仕事紹介
障害のある人の新しい仕事を作ることを目指し、2016年にオープン。多様な活動をメンバーが紹介します。

A-2 13:40-15:10[90分]

IoTとFabと福祉
—新しい技術を仕事と暮らしに
いかす—

たんぽぼの家では、全国の福祉施設や専門機関と連携し、3Dプリンタなどのデジタル工作機器を活用したもののづくりや、センサーを使ってケアの負担を減らす事例など、さまざまな実験を続けています。最新の技術をつかった取り組みを共有します。

富本 浩一郎
(山口大学 国際総合科学部 講師／山口)
藤井 克英(Good Job! センター香芝 副センター長)
小林 大祐(一般財団法人たんぽぼの家 スタッフ)

B-2 13:40-15:10[90分]

知的財産権について知ろう!

アート作品の制作や、商品開発など、創造におけるさまざまな場面で関わってくる知的財産権は、表現を守りながら広げていくための大切なルールです。そんな知的財産権について、身近な事例から考えたり、参加者同士でゲームにより学び合うプログラムを実施します。

橋本 高志
(社会福祉法人ぶろぼの 京阪奈エリアリーダー／奈良)
森下 静香(Good Job! センター香芝 センター長)
後安 美紀(一般財団法人たんぽぼの家 スタッフ)

C-2 13:40-15:10[90分]

アーティスト、私の仕事です。

障害のある人のアート活動が広まるにつれ、アートを自分の仕事にしたり、継続した活動により社会的な評価をうける人たちも増えています。一方で「障害者アーティスト」という言葉やイメージが先行し、ステレオタイプに表現を伝えるにくい場面もあります。活動を継続している人たちの本音を聞き、ともに考えます。

檜皮 一彦(美術作家／大阪)
栗田 淳一・早川 弘志
(社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房／滋賀)

15:20-16:20[60分]

全体振り返り／終了